

平成二十四年 秋季火災予防運動 十一月九日(金)～十五日(木)

〔全国統一標語〕 「消すまでは 出ない行かない 離れない」

〔目的〕 火災の発生しやすい気候となる時季を迎えるにあたり、火災予防思想の一層の普及を図り、火災の発生を防止し、火災による死傷者の発生や財産の損失を防ぐとともに、特に高齢者等を中心とする死者の発生を大幅に減少させることを目指して展開されます。

〔消防フェア〕

十一月十一日(日) 午前十時～午後一時 明石市消防本部 明石市防災センター

〔防火ポスター展〕

十月十八日(木)～十月二十五日(木) 市役所二階ロビーで展示 十月二十六日(金)～十一月二日(金) イオン明石2番街で展示

〔防火ポスター表彰式〕 十月十八日(木)午後四時三十分～市役所2階ロビーで開催

実施要領

- 重点目標 1 住宅防火対策の推進 2 放火火災予防対策の推進 3 特定防火対象物等における防火安全対策の徹底 4 工場における防火安全対策の徹底

- イ 維持管理の周知 住宅用火災警報器の悪質な訪問販売や詐欺等に係る被害防止のための周知 ウ 住宅用火災警報器をはじめとした住宅用火災機器等の普及促進 たばこ火災、ライターによる火遊びに係る注意喚起 オ 消防団、婦人防火クラブ及び自主防災組織等と連携した広報、普及啓発活動の推進 カ 石油ストーブ火災に係る注意喚起(節電対策による石油ストーブの使用量) ア 放火火災予防対策の推進 パチンコ店及び物品販売店舗における放火火災防止対策の徹底 イ 放火火災による被害の軽減対策の実施

- イ 事掲載 消防本部ホームページに火災予防運動紹介 消防ポスターの作成・配布 ウ 消防本部及び各署で横断幕、懸垂幕のぼり旗の掲出 オ 屋外文字広報による火災予防の呼びかけ カ 自治会回覧等を活用し、住宅用火災警報器、たばこ(ライター)火災予防及び石油ストーブ火災予防に関する啓発を実施

お知らせ

平成二十四年度 明石市総合防災訓練の実施について

震災時における行政、関係機関、市民との連携の強化及び自助・共助に基づく地域防災力の向上を図るため、実践的な訓練を実施します。

防火協会視察研修

防火協会の定例行事である視察研修が七月六、七日の両日にわたり、先進都市事業所の防火管理体制を見習うべく、信州方面への視察研修を実施しました。一日目は、長野県諏訪市にあるセイコーエプソン(株)本社工場を視察しました。同社はクォーツなどの単体部品から液晶デバイス等の半製品、各種のプリンターやプロジェクター、パーソナルコンピュータといった最終製品まで製造しています。



二日目は、同じく長野県駒ヶ根市にある養命酒駒ヶ根工場を見学し、自然の四季をハイビジョンで撮影した映画を大型スクリーンで鑑賞し、その後養命酒を試飲した後、残念ながら休日ということで製造ラインは停止状態でしたが、併設の記念館等工場内を散策しました。豊かな自然に囲まれた工場の商品の品質管理に一生懸命取り組んでいるところがよくわかりました。

「消防フェア」の開催について

毎年、秋の火災予防運動期間中の一環として市内大型物品販売店舗等で「防火キャンペーン」を開催してきましたが、今回、「消防フェア」を開催にあたり「防火キャンペーン」を「消防フェア」に統合し、「消防フェア with 秋の防火キャンペーン」としてイベントを開催します。

- 開催目的 火災予防の普及啓発や、市民に対する防災意識の高揚及び住宅防火対策等の推進を図り、消防行政に対する理解を深め、地域住民に親しまれる消防を目指します。
- 開催日時 平成二十四年十一月十一日(日) 午前十時から午後一時まで(雨天の場合は中止とします。)
- 開催場所 明石市消防本部 明石市防災センター
- 主催 明石市消防本部
- 参加団体 明石市消防団・明石防火協会・長寿院保育園
- イベント内容 煙体験、放水体験、ミニ通信、消防活動デモンストラレーション、車両展示、ホースでボウリング、消防クイズ等十三種類のイベントコーナーを設け、開催中、スタンプラリーを実施し、参加した子どもに景品をプレゼントします。

編集雑感(後記)

気づけば季節はすっかり秋めいてきました。今年の夏はまさしく猛暑で、ただけこの季節が待ち遠しかったことか。関西では結局、計画停電は回避されましたが、電力の安全・安定供給ができるよう、皆様の事業所においても節電対策についてご苦勞されたことと思います。一年ずつと秋ならば、エアコンの電力消費も抑えられて、環境にも良いと思うのですがいかがでしょうか?と、つい都合のよいことばかり考えてしまいました。

そうは言っても日本には四季があるわけで、暑いときがあれば、寒いときもあるわけです。逆に四季がなくなってしまうたら、とても寂しい気持ちになってしまったり、でもない寂しいでしょうか。私も暑いとか、寒いとか文句ばかり言わずに、季節に合わせた適切な暮らし方で、環境にやさしい日々を送れたら素晴らしいですね。まずは、食欲の秋を満喫だ!!

2 内容

- (1) 近く発生が懸念されている東海・東南海・南海地震に伴う津波被害を想定し、津波避難訓練を行い、津波警報等発表時における迅速な行動を学ぶ。
- (2) 津波による被害を想定し、避難対象地区において防潮ゲート取り扱
- (3) 近畿府県合同防災訓練参加機関へりによる、傷病者搬送及び物資搬送

会報

明石のぼうさい

編集発行/明石防火協会(明石市消防本部予防課内) 〒673-0044 明石市藤江924番地の8 TEL(078)918-5948 FAX(078)918-5983 ホームページアドレス: http://www.akashi-bouka.jp/



らった後ものづくり歴史館、研修施設等を説明を受けながら見学し、あらためて商品の開発によって蓄積された技術をさらに発展させ、ものづくりの精神を伝承しているところに感銘しました。その夜は、長野県の蓼科高原にあるホテルで研修の疲れを癒し、次の日の英気を養うため、懇親会で研修の成果を語り合いながら会員相互の親睦を図りました。

二日目は、同じく長野県駒ヶ根市にある養命酒駒ヶ根工場を見学し、自然の四季をハイビジョンで撮影した映画を大型スクリーンで鑑賞し、その後養命酒を試飲した後、残念ながら休日ということで製造ラインは停止状態でしたが、併設の記念館等工場内を散策しました。豊かな自然に囲まれた工場の商品の品質管理に一生懸命取り組んでいるところがよくわかりました。



会員事業所紹介

ライオン株式会社

ライオン(株)明石工場は、魚住町西岡の地に昭和四十四年四月竣工され、現在、GMP体制のもと、主に歯磨、歯磨子を生産しております。特に歯磨子の生産では、常に最新鋭の設備を導入し、年間一億二千万本の生産能力を有しています。又、当工場は長年にわたり地域社会とのコミュニケーションを大切に、社外学習としての工場見学の入入れ、各種団体への休日のランド貸し出し、全従業員による工場周辺の一斉清掃活動などを継続実施しております。

防災への取り組みでは、総合防災訓練、部分防災訓練、安否確認訓練等の各種訓練を行ない、有事の際に迅速かつ的確に基本行動を取れる様、防災委員の養成、防災備蓄品の強化等、日頃から全従業員の防災意識の維持向上に努めております。



キャタピラージャパン(株)明石事業所

弊所は一九六〇年に新三菱重工業(株)神戸造船所明石工場として現在の地に発足、一九七一年に三菱重工業(株)明石製作所となり、以後のユニボ社との業務提携により日本で初めて油圧ショベルの製作を開始しました。以来、油圧ショベルを中心として建設機械の製造に携わってきました。一九八七年に米國キャタピラー社と三菱重工業(株)の合弁会社である新キャタピラー三菱(株)明石工場(一九九〇年に明石事業所に改組)となり、更に二〇〇八年に出資比率見直しによりキャタピラージャパン(株)明石事業所となり、今日に至っております。

現在、弊所はCATブランド油圧ショベルのグローバルのリーダーブランドという役割を担っています。また、隣接する油圧ショベル開発本部では、CATブランド油圧ショベルの設計開発を行っており、この明石の地で作られた設計図は、世界中の工場に供給されています。

防火・防災に関しては消防法の改正により地震などの大規模災害を想定した消防計画の策定後、従来行ってきた総合避難訓練に自衛消防活動を織り込んだ総合防災訓練へと移行しましたが、東日本大震災後は東京や米國との情報伝達のシミュレーションなどにも着手しており、今後も活動の改善に努めて参ります。

平成二十四年度兵庫県危険物安全・安心大会



兵庫県危険物安全協会理事長表彰

危険物安全週間中の平成二十四年六月六日(水)「兵庫県民会館けんみんホール」において、県下防火協会、保安協会関係者約三百名が参加し、盛大に行われました。第一部は表彰式、第二部では神戸海洋気象台業務課防災気官草川和康氏による「気象と災害」と題した記念講演が行われました。

講演では静電気の帯電と発生、緩和にはじまり、静電気災害防止対策などくわしく解説していただき、大変有意義な講演会でした。表彰式では、明石防火協会の方が次のとおり受賞されました。

優良事業所

- ◆株式会社タイセキ関西事業所
- ◆神戸発動機株式会社

明石危険物防災講演会



市内に危険物施設を所有する事業所の保安業務担当者等に対して、危険物の保安に対する意識の高揚、啓発を推進することにより、自主保安体制の確立及び危険物に起因する事故災害の防止を図ることを目的に六月五日(火)明石市立産業交流センターにおいて、明石市危険物防災防災講演会を開催しました。

公益社団法人産業安全技術協会技術指導部「静電気災害防止のための静電気現象・安全工学に関する基礎知識」と題し、講演会が行われ、市内の事業所から百三十八名の方が熱心に受講されました。

医療福祉防火管理研究部会視察研修



当部会の定例行事である視察研修が九月十三日に実施されました。田中部会長以下部会員二十三名の方から公務多忙の中、参加されました。

今回の視察研修は、京都府伏見区にある株式会社京都科学を見学しました。

当事業所は、主に医学・看護教育用シミュレーター、トレーニングモデル等医療現場に欠かす事の出来ない臨床教育用模型を製造・販売する企業です。

工場を見学させていただいて、出来上がったいく製品を見てみると、明日の医療を支える人材(医師・看護師等)の育成に貢献しているという社会的役割を担っている仕事であることをつくづく感じました。

自衛消防隊員新任研修に参加して

シバタ工業株式会社

綿野 洋介(わたの ようすけ)

今回の自衛消防隊員新任研修に参加して、身の周りにおける消火器やAED(自動体外式除細動器)など、普段の生活ではあまり意識して見ないものを実際に使うことにより、改めてその重要性に気づくことができました。一日になりました。



シバタ工業株式会社

金田 綾加(かねだ あやか)

明石市消防署において、自衛消防隊員消防訓練を体験しました。今回の訓練では、心肺蘇生法、AEDの使い方、消防設備の取り扱い方などを学びました。AEDや消防設備は見たことがなかったのですが、今回の訓練で取り扱った方法を教えて頂くことができ、とても貴重な体験ができました。その中でも特に屋外消火栓の取り扱いは、大きくて水の勢いもあるもので、ふらつくことがあり、難しかったです。今後は、この体験を活かし、災害などが起きたときに備えて、社内においても的確な行動をとっていきたく思います。

平成24年 上半期(1~6月)火災・救急の統計

火災の概要

平成24年上半期の明石市における火災件数は、41件・焼損床面積は295㎡・火災損害額2,165万3千円・死者0名・負傷者9名です。



●前年度の比較(件数)

区分	平成24年	平成23年
建物	25	23
林野	0	0
車両	6	2
船舶	0	0
その他	10	18
合計	41	43

●出火原因(件数)

放火(含疑)	10
その他	7
たばこ	4
火遊び	4
ストーブ	3
こんろ	3
不明・調査中	3
排気管	2
電気機器	2
風呂かまど	1
ライター	1
火入れ	1
合計	41

●火災損害

焼損棟数	全焼	2棟
	半焼	1棟
焼損面積	部分焼	4棟
	ぼや	19棟
り災世帯	全損	4世帯
	半損	2世帯
	小損	19世帯
り災人員	60人	
損害額	21,653千円	
建物	20,812千円	
車両	832千円	
その他	9千円	

●前年度の比較(件数)

区分	平成24年	平成23年
火災	27	31
自然災害	1	1
水難	8	6
交通事故	554	602
労働災害	28	25
運動競技	17	17
一般負傷	855	847
加害	38	62
自損行為	74	103
急病	3,560	3,593
その他	686	721
合計	5,848	6,008

救急の概要

火災件数は前年の43件から2件減少しました。火災による死者は0名で1名減少し、負傷者は9名で前年5名増加しています。主な出火原因をみると、1位が「放火・放火の疑い」10件(5件減)2位は「その他」7件(4件増)、3位「たばこ」4件(3件増)と「火遊び」4件(同件数)となっています。火災件数の中で建物火災を見ると前年の23件から2件増加し、死者・負傷者についても合わせ火災による死者は0名で1名減少し、負傷者は9名で5名増加しています。また建物火災の中で損害額については、前年より51.3%と大きく減少していることから現在でも推進している住宅用火災警報器の設置についての効果が出ていると思われます。救急出動件数は5,848件で前年より160件減少しました。救急事故種別は1位急病3,560件、2位一般負傷855件、3位交通事故554件となっており、いずれも前年より減少しています。